

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成28年度 第6回 入間市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成29年2月17日(金) 午後1時30分 開会、午後3時20分 閉会
開 催 場 所	入間市リサイクルプラザ 2階研修室
議 長 氏 名	入間市廃棄物減量等推進審議会 会長 小林昌幸
出席委員(者)氏名	相葉 学 池谷 浩 奥山重信 釦持和夫 小林昌幸 関根精隆 多田ひとみ 永井健一 向野康宏 森谷秀一 山本有男
欠席委員(者)氏名	岡野こずえ 和田伸二 篠塚玲子 沼井里恵
説明者の職氏名	環境経済部長 山崎利明 環境経済部副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 石川昌輝 総合クリーンセンター(事務局) 副主幹 齋藤政弘
会 議 次 第 (公 開)	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 諮問事項に対する審議 (2) その他 4 その他 5 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	入間市一般廃棄物処理基本計画 ごみ処理基本計画編【改訂素案】の訂正内容
事務局職員職氏名	環境経済部長 山崎利明 環境経済次長 長谷川 功 環境経済部参事兼総合クリーンセンター所長 秋元 満 環境経済部副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 石川昌輝 環境経済部副参事(管理業務担当兼宮寺清掃センター所長) 横田一洋 総合クリーンセンター(事務局) 主 幹 廣瀬光太郎 主 幹 増岡貞夫 副主幹 齋藤政弘
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

○議題

(1) 諮問事項に対する審議

事務局より【資料】（改訂素案前半・後半部分）を用いて説明を行った。

(2) その他

事務局より次の点について説明を行った。

- ・ 次回会議の日程について

○その他

特になし

以上

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
(増岡主幹) 小林会長 小林議長 各委員 小林議長 (石川副参事)	<p>1 開 会 (配布資料の確認を含む。)</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>本日の出席委員の人数は、11名です。よって、「入間市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第2項」の規定に基づき、委員の半数以上が出席しておりますので、会議は成立となります。</p> <p>続きまして、本日の会議録の署名について、「議長のほかに1名以上ということですので名簿順で多田委員にお願いしたいと思います。ご異議ありませんか。</p> <p>「異議なし」の声</p> <p>それでは、議事に入ります。本日の議題は2点となっております。1点目としまして『諮問事項に対する審議』、2点目に『その他』となっております。はじめに議題(1)『諮問事項に対する審議』について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>それでは前回ご指摘の内容を踏まえ事務局より説明させていただきます。ご確認いただく資料は前回会議で配布済みの「入間市一般廃棄物処理基本計画【改訂素案】前半部分」と、「同【改訂素案】修正内容」の2種類です。</p> <p>※上記2種類の資料を使用し、以下の内容について要点説明を行う。</p> <p>○目次</p> <p>下表「用語の定義」ごみ総排出量の定義「ごみ排出量+集団回収」を「ごみ排出量+集団資源回収」に改める。以後、本文、表および図等「集団回収」の表記を「集団資源回収」に改める。</p> <p>(P8、P9、P24、P25)</p> <p>○P1</p> <p>4行目「首都圏近郊都市」を「首都近郊都市」に改める。また、図「入間市の概況図」をはっきりと見やすく表記する。</p> <p>○P8</p> <p>表「1 ごみ総排出量の実績」の下段に「※ごみ総排出量(家庭ごみ・事業ごみ・不法投棄ごみ・集団資源回収量の合計)」を追記する。</p> <p>○P10</p> <p>表「2 処理・処分の実績」の下段に「ごみ排出量」「ごみ総排出量」「資源化率」の説明を追記する。</p>

発 言 者	発 言 内 容																																				
	<p>○P18</p> <p>表「最終処分場の概要」の下段に埋立予定期間の説明を追記する。</p> <p>※記載案文</p> <p>「埋立予定期間については、「最終処分場残余量測定業務委託」の結果を基に、平成26年度の残余量測定値(44,799 m³)から、平成27年度の同測定値(41,791 m³)を引いた体積の差(3,008 m³)を毎年埋め立てたと仮定して設定したものです。</p> <p>なお、平成27年度末現在で、およそ13年分の残余量を確保していますが、今後も、ごみの減量化と飛灰の資源化を継続して実施し、最終処分場の延命化を図っていきます。</p> <p>○P19</p> <p>表「ごみ処理経費」を以下のとおりに改める。</p> <table border="1" data-bbox="539 936 1369 1597"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>ごみ排出量 (t)</th> <th>ごみ処理経費 (千円)</th> <th>1tあたり (円)</th> <th>1人あたり (円)</th> <th>1世帯あたり (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成23年度</td> <td>48,263</td> <td>1,672,496 (248,159)</td> <td>34,654</td> <td>11,107</td> <td>27,438</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td>46,966</td> <td>1,642,540 (215,267)</td> <td>34,973</td> <td>10,939</td> <td>26,951</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>46,458</td> <td>1,627,765 (203,675)</td> <td>35,037</td> <td>10,835</td> <td>26,388</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>45,590</td> <td>1,687,527 (198,181)</td> <td>37,015</td> <td>11,246</td> <td>27,085</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>45,558</td> <td>1,780,691 (302,528)</td> <td>39,086</td> <td>11,907</td> <td>28,290</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ごみ処理経費の下段、()については、ごみ処理経費のうち定期修繕費および改修工事費の額</p> <p>○P20</p> <p>6行目以降の本文を以下のとおりに改める。</p> <p>※記載案文</p> <p>「1人1日あたりの家庭ごみの排出量は、中間目標656gに対して実績値672gで、16g目標を達成できませんでした。目標を達成できなかった大きな理由は、平成24年度から平成26年度までは毎年ごみ量が大きく減少していますが、平成27年度は景気上昇等によりごみ量の</p>	区分	ごみ排出量 (t)	ごみ処理経費 (千円)	1tあたり (円)	1人あたり (円)	1世帯あたり (円)	平成23年度	48,263	1,672,496 (248,159)	34,654	11,107	27,438	平成24年度	46,966	1,642,540 (215,267)	34,973	10,939	26,951	平成25年度	46,458	1,627,765 (203,675)	35,037	10,835	26,388	平成26年度	45,590	1,687,527 (198,181)	37,015	11,246	27,085	平成27年度	45,558	1,780,691 (302,528)	39,086	11,907	28,290
区分	ごみ排出量 (t)	ごみ処理経費 (千円)	1tあたり (円)	1人あたり (円)	1世帯あたり (円)																																
平成23年度	48,263	1,672,496 (248,159)	34,654	11,107	27,438																																
平成24年度	46,966	1,642,540 (215,267)	34,973	10,939	26,951																																
平成25年度	46,458	1,627,765 (203,675)	35,037	10,835	26,388																																
平成26年度	45,590	1,687,527 (198,181)	37,015	11,246	27,085																																
平成27年度	45,558	1,780,691 (302,528)	39,086	11,907	28,290																																

発 言 者	発 言 内 容
	<p>減少が小さかったことによるものです。（P 8 参照）</p> <p>また、事業ごみの排出量は、中間目標の 8,744 t を平成 26 年度に達成していましたが、同様に事業活動が活発になったことなどの理由により、30 t 目標を達成することができませんでした。</p> <p>資源化率は、平成 23 年度以降 25%以上で推移しており大きな変化はなく、今後も更なるごみ分別の啓発を推進する必要があります。</p> <p>最終処分量は、中間目標 2,800 t 以下に対して実績値 3,371 t で、571 トン目標を達成できませんでした。（P 1 0 参照）</p> <p>※本内容に係る補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県および国のデータは、一部データがないため表記しない。 ・表「ごみ排出量等の中間目標値と実績値」の下段に、「ごみ排出量」「資源化率」「最終処分量」を追記する。 <p>○P 2 2</p> <p>「1 人口の予測」に、人口構成別表（年少人口、生産年齢人口、高齢者人口）を追記する。</p> <p>○P 2 4</p> <p>5 行目「過去 10 年間の増減率」と「過去 5 年間の増減率」の数値を比較したが「差が 0.1%であった」ことから現状の記載のとおりとする。</p> <p>なお、P 2 4～2 6 の表中「排出量」「総排出量」の説明は第 2 章で説明しているため、追記しない。</p> <p>○P 3 8 ※後半部分に該当し審議前の内容となるが先んじて説明する。</p> <p>「1 処理の実績」について、以下のとおり修正する。特に、表について、「1 人 1 日あたりのし尿」及び「1 人 1 日あたりの浄化槽汚泥」の欄は、より分かりやすい表記とするため削除する。</p> <p>※記載案文</p> <p>し尿収集人口は、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間に 448 人（▲36.5%）、浄化槽人口は 1,328 人（▲6.1%）と、それぞれ減少していますが、し尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量は、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間ほぼ横ばいで推移しています。その理由としては、市域で宅地開発等が盛んに行われており、工事現場に設置される仮設トイレからの収集量が増加したことによるものです。</p>

発 言 者	発 言 内 容																																																															
	<p>し尿・浄化槽汚泥の収集・処理量及びし尿収集・浄化槽人口の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>し尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量</td> <td>kℓ/年</td> <td>11,847</td> <td>12,023</td> <td>11,981</td> <td>11,661</td> <td>12,101</td> </tr> <tr> <td>し尿</td> <td>kℓ/年</td> <td>1,303</td> <td>1,289</td> <td>1,147</td> <td>1,087</td> <td>1,157</td> </tr> <tr> <td>浄化槽汚泥</td> <td>kℓ/年</td> <td>10,545</td> <td>10,734</td> <td>10,834</td> <td>10,574</td> <td>10,944</td> </tr> <tr> <td>1日あたりのし尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量</td> <td>kℓ/日</td> <td>32.5</td> <td>32.9</td> <td>32.8</td> <td>32.0</td> <td>33.2</td> </tr> <tr> <td>し尿</td> <td>kℓ/日</td> <td>3.6</td> <td>3.5</td> <td>3.1</td> <td>3.0</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>浄化槽汚泥</td> <td>kℓ/日</td> <td>28.9</td> <td>29.4</td> <td>29.7</td> <td>29.0</td> <td>30.0</td> </tr> <tr> <td>し尿収集人口</td> <td>人</td> <td>1,229</td> <td>1,074</td> <td>968</td> <td>897</td> <td>781</td> </tr> <tr> <td>浄化槽人口</td> <td>人</td> <td>21,597</td> <td>21,475</td> <td>21,322</td> <td>20,463</td> <td>20,269</td> </tr> </tbody> </table> <p>(端数整理(四捨五入)の都合上、合計が異なる場合があります。)</p>	区 分	単 位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	し尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量	kℓ/年	11,847	12,023	11,981	11,661	12,101	し尿	kℓ/年	1,303	1,289	1,147	1,087	1,157	浄化槽汚泥	kℓ/年	10,545	10,734	10,834	10,574	10,944	1日あたりのし尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量	kℓ/日	32.5	32.9	32.8	32.0	33.2	し尿	kℓ/日	3.6	3.5	3.1	3.0	3.2	浄化槽汚泥	kℓ/日	28.9	29.4	29.7	29.0	30.0	し尿収集人口	人	1,229	1,074	968	897	781	浄化槽人口	人	21,597	21,475	21,322	20,463	20,269
区 分	単 位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度																																																										
し尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量	kℓ/年	11,847	12,023	11,981	11,661	12,101																																																										
し尿	kℓ/年	1,303	1,289	1,147	1,087	1,157																																																										
浄化槽汚泥	kℓ/年	10,545	10,734	10,834	10,574	10,944																																																										
1日あたりのし尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量	kℓ/日	32.5	32.9	32.8	32.0	33.2																																																										
し尿	kℓ/日	3.6	3.5	3.1	3.0	3.2																																																										
浄化槽汚泥	kℓ/日	28.9	29.4	29.7	29.0	30.0																																																										
し尿収集人口	人	1,229	1,074	968	897	781																																																										
浄化槽人口	人	21,597	21,475	21,322	20,463	20,269																																																										
小林議長 森谷委員	<p>この部分に関してご質問等はございますか。</p> <p>P 2 4～2 6 の表の採用データですが、やはり直近5年間とすべきと考えます。傾向を予測するには、古いデータは省きより現在に近いデータを採用したほうがより確実性が増すものと考えます。</p>																																																															
(石川副参事)	<p>過去10年のデータを採用するか、あるいは直近5年のデータを採用するかにつきましては、当審議会の協議結果に準じたいと思います。</p> <p>事務局としましては、総じてごみ量は、その時々々の景気動向に左右されるものであるため、その後の傾向を予測するには、直近5年よりも、過去10年という長いスパンでとらえたほうが、データとしてはより実際に即したものとなるのではないかという考えのもと採用しました。</p>																																																															
小林議長 山本委員	<p>委員の皆さんいかがですか。</p> <p>感覚的にはではなく、統計学などの科学的な見地から考えた場合、過去10年と5年ではどのような差異があるのでしょうか。例えば、気象庁が発表する天候の長期予報などは、過去10年間のデータを採用しています。極端に短いスパンのデータは不適當ですが、結果として採用データの根拠が明確であれば、あまり期間の長短にこだわる必要はないものと考えます。</p>																																																															
剣持委員	<p>私も、今の山本委員の意見と同じ考えです。</p>																																																															
小林議長	<p>それでは「決」をとらせていただきます。</p>																																																															
各委員	<p>現行のとおり過去10年のデータを採用することに賛成多数の挙手</p>																																																															
永井委員	<p>P 2 4～2 6 の表の棒グラフですが、より見やすい表記とするため、過去の実績値と将来の予測値のデザインを区別してはいかがでしょうか。</p>																																																															
(石川副参事)	<p>棒グラフの種類分けなど何らかの工夫をさせていただきます。</p>																																																															
小林議長	<p>【改訂素案】前半部分について、ほかにごございますか。</p>																																																															

発 言 者	発 言 内 容
各委員 小林議長 (齋藤副主幹)	<p>「なし」の声</p> <p>それでは続いて、【改訂素案】後半部分について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>改訂素案の後半部分（P 3 1～P 5 0）について、要点を説明させていただきます。</p> <p>○P 3 1</p> <p>ごみ排出量の目標値については、P 2 9に関連もので、県が平成 2 8 年 3 月に新たな目標値を設定したため、それに合わせ平成 3 2 年度目標値を見直した。</p> <p>なお、資源化率の目標値については変更なし。</p> <p>○P 3 2</p> <p>最終処分量について、平成 32 年度目標値を見直した。県目標値の 1 人 1 日当たりの最終処分量は、平成 2 5 年度実績の 1 0 %削減としているが、それに準じて計算すると平成 2 7 年度の実績値を超えてしまうため、あえて平成 2 7 年度（中間目標）と同じ数値としている。</p> <p>○P 3 3</p> <p>施策の体系については、大きな変更点はないが、下段「ごみ処理施設の充実」欄において、「次期最終処分場の建設準備」を追加した。</p> <p>○P 3 4～3 7</p> <p>個別施策の目標について、全体的に表記を分かりやすく変更した。特に表について、従前は「目標」欄が「短期・中長期」に分けられていたが、今回の改訂ではその部分を単に「平成 2 9～3 2 年度」とした。</p> <p>また、従前あった「備考」欄は削除し、その内容については「個別施策の内容」欄へ記載することとした。</p> <p>P 3 6 について、「ごみ分別アプリの活用」、「雑がみリサイクル事業の推進」の項目を追加した。</p> <p>P 3 7 について、「次期最終処分場の建設準備」の項目を追加した。</p> <p>○P 3 8</p> <p>し尿及び浄化槽汚泥の処理実績に関し直近 5 年間を記載。内容については、先述石川副参事の説明のとおり。</p> <p>○P 3 9</p> <p>収集・運搬体制及び処理施設について、変更点なし。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>○P 4 0 処理計画について、新たに「4 将来計画」を追加した。</p> <p>○P 4 1～4 3 計画の進行管理と推進体制について、変更点なし。</p> <p>○P 4 4 一般廃棄物処理計画の策定経緯について、内容を更新した。</p> <p>○P 4 5 審議会名簿について、内容を更新した。</p> <p>○P 4 6 総合クリーンセンターの所掌事務について、大きな変更点なし。</p> <p>○P 4 7～5 0 用語解説について、現時点の内容に沿ったものに修正。</p>
小林議長 剣持委員	<p>この部分に関してご質問等はございますか。</p> <p>P 3 1 「1 ごみ排出量の目標」の説明文が、少し分かりにくいように思います。</p>
小林議長 (石川副参事)	<p>私も掲載の数値が複雑で分かりにくいと感じます。事務局にて再度整理していただき、説明文全体の表記をより分かりやすいものとしてください。</p> <p>了解いたしました。</p>
小林議長 山本委員	<p>ほかにごございますか。</p> <p>P 3 3 「個別施策」から以降のページを見ますと、「促進・充実・検討・支援・拡大・推進」など、抽象的な表現が多いと感じます。分かる部分は、数値を記載するなど実効的な表記としたほうが良いと思います。</p>
小林議長	<p>最終的には、様々な要素が、P 3 5 下段「ごみ減量アクションプランの作成」に集約され、それを遂行することによって、例えば、1人1日当たり何グラム減少させることができた等の成果に結びつくものと考えます。</p> <p>今ご指摘の内容は、前回改訂時にも同様のことが協議されました。個人的な見解ですが、前回の内容と比べますと、事務局としても、今回の素案はかなり要点を意識しながら作成に努めていると感じます。</p>
永井委員 (山崎部長)	<p>P 3 3 「個別施策」の「1 施策の体系」については、大きな枠での理念的な意味合いも含まれているため、現行の表現で十分と思います。</p> <p>まずP 3 3 「個別施策」の「1 施策の体系」ですが、この部分は「施策の幹」を表しており、個別施策のいわば目次と解釈することができます。し</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>たがいまして、このP 3 3については、現行の表記方法でご了解をいただきたいと思います。</p> <p>山本委員のご指摘は、P 3 4からP 3 7にある「目標」欄の表記に関し、やや漠然とした感が否めないのではないかと考えています。</p> <p>例としましてP 3 4をご覧ください。例えば、「目標」欄に「推進」とありますが、これは、「現状」の実績値を確保（維持）しながら施策を進めていくことを意味しております。特に、施設見学の受け入れ校数などについては、実績値を上回る目標値を設定しようにも、学校そのものの数が増えないことには困難なことであります。このように、具体的に数字で記載できないものにつきましては、やむを得ず「推進」等の表記を用いております。</p> <p>一方、P 3 5にあります「リサイクルプラザの活用」の各種教室への参加人数のように、具体的にお示しできるものにつきましては、実際に数字を記載しております。</p> <p>そこで、本件に係る審議にあたり、委員の皆様におかれましては、再度P 3 4～3 7の各項目をご確認いただき、さらに具体的な数字を設定すべき箇所がございましたらご指摘をいただければと思います。</p>
永井委員	<p>今の山崎部長の説明を踏まえて、「目標」欄の表記方法として、単に「推進」とするのではなく、より分かりやすく、例えば「現状のとおり推進」等に修正してはいかがでしょうか。</p>
小林議長	<p>それも一案かと思いますが、行政における個別施策の明確な数値化はなかなか難しい部分もあろうかと思いますが、各委員におかれましては、今回の改訂素案の内容をもう一度ご確認いただき、さらに具体的な数字を設定すべき箇所がございましたらご指摘をいただければと思います。それと同時に事務局でも再度内容を精査し、修正すべき箇所があれば提示してください。</p> <p>ほかにごありますか。</p>
剣持委員 (山崎部長)	<p>P 3 4中段に「廃棄物会計の導入の検討」とあります。これはかなり以前から記載されているものと記憶していますが、実際に現時点でどのあたりまで研究・検討が進んでいるのでしょうか。</p> <p>廃棄物会計の内容につきましては、総合クリーンセンターにて、平成27年度に調査・研究を行ったところです。</p> <p>県内でも当該会計基準を取り入れているのは、数市程度であり、近隣では、所沢市と川越市がございます。もともとこの会計基準は、ごみの種別や</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>処理方法等を細かく分け、個別に経費や損益等を算出し、適正な原価計算に努めることを目的としたものでございます。</p> <p>ただし、それには多大な労力を必要とし、データ収集・整理・分析等に複数の専門職員を配置しているような状況です。また、当市が当該会計基準を取り入れても、同様の取り組みをしている同規模の自治体と比較しないと、あまり効果が得られないということがわかりました。平成27年度秋ごろに、他自治体へアンケート調査を行いました。当市と同規模の自治体で当該会計基準を取り入れているところはございませんでした。</p> <p>したがって、各種調査及び検討の結果、現時点で当該会計基準を導入するのは難しいものと判断しております。</p>
<p>剣持委員</p>	<p>ただ今山崎部長から説明があった事情については、私も承知しています。もし当面同じ状態が続くのであれば、あえて改訂素案に「廃棄物会計の導入の検討」という項目を記載する必要はないと考えます。</p>
<p>小林議長 向野委員</p>	<p>この件に関しまして、他の委員の皆さんいかがでしょうか。</p> <p>例えば、環境ISO等でも一時は注目されましたが、その後は除外するといったケースが増えてきています。費用対効果を考えますと、記載しなくてもよいと思います。</p>
<p>奥山委員 (石川副参事)</p>	<p>記載を見合わせる客観的な根拠が不足しているように思います。</p> <p>廃棄物会計基準の導入は、法律事項ではないにしても、地方自治業務について透明性を確保しつつ効率的に進めていくことは市町村の責務であるとの観点から、環境省より、廃棄物会計基準の導入に向け努力するよう通達がなされているところではあります。</p>
<p>(山崎部長)</p>	<p>入間市議会平成28年6月定例会の一般質問におきまして、「廃棄物会計基準の導入については、今後も県内の状況等を注視してまいります。」との答弁をさせていただいております。これらの点から、項目そのものを削除するのではなく、P34の「目標」欄につきましては、「研究」という記載のみにとどめさせていただき、今後も引き続き近隣市あるいは県内の状況等を注視していくという考え方でいかがでしょうか。</p>
<p>小林議長 各委員 相葉委員</p>	<p>委員の皆さん、今の山崎部長の説明でよろしいですか。</p> <p>「異議なし」の声</p> <p>今回事務局から提示された改訂素案のP34～37に関し、前回改訂の平成24年版と比べ、「現状」欄や「目標」欄の記載方法がかなり変更されて</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>小林議長 (石川副参事)</p>	<p>います。時間の制約がある中で、それらについて一つひとつ説明を受けるのは無理かと思いますが、現状分析、それに対応する目標設定などについて、もう少し具体的に検討することも必要かと思いますが。</p> <p>この件について事務局いかがですか。</p> <p>「平成24年版の個別施策欄」と「今回の改定素案の個別施策欄」の記載方法の変更点につきまして順番に説明させていただきます。1点目に「現状」欄ですが、平成27年度の実績値を精査し、可能なかぎり具体的な数値を拾い出して記載しております。2点目に「目標」欄ですが、従前の短期・中長期という分け方ではなく、まもなく到来する平成32年度に焦点を当て「平成29～32年度」という一つの枠にまとめさせていただきました。こちらにつきましても同様に、具体的な数値が見えているものについては可能なかぎり記載し、それが無理な施策については先ほどの説明のとおり「推進・研究・検討・実施」等の文言を使用させていただいております。</p>
<p>小林議長 (石川副参事)</p>	<p>事務局としましても、「目標」欄に関し再度内容を精査し、さらに具体的な数値を掲載すべき箇所があれば修正を加えたいと思います。</p> <p>前回改訂の平成24年版と今回の改定素案では、そもそも計画スパンのとりえ方が異なるという解釈でよろしいですか。</p>
<p>小林議長</p>	<p>確認になりますが、計画書P4にも記載がございますように、本計画（入間市一般廃棄物処理基本計画）は、あくまでも「平成18～32年度」という大きな枠の中で進行中のものがございます。15年間という長期スパンであるため、計画の前提となる諸条件の変動等を踏まえ、概ね5年ごとに計画を見直す（改訂する）こととなっております。このスパンにおける最初の改定が平成24年度であり、今回が2回目の改訂となります。特に今回の改訂は、まもなく到来する「計画の終期」（平成32年度）を見据え、いわば「計画の総仕上げ」といったニュアンスを含んだものになっているとご理解いただければと思います。</p>
<p>奥山委員</p>	<p>今の石川副参事の説明のとおり、今回の改訂素案作成の意図は、平成24年版とは区別し、「計画の終期」（平成32年度）を見据えたものであるとのこと。そうしますと、前回改訂の平成24年版の数値等の内容がやや隠れたかたちとなりますが、それについて委員の皆さんいかがですか。</p> <p>先ほどの相葉委員のご意見とも関連しますが、前回改訂時の平成24年に設定した平成27年度中間目標値について、例えばそれが平成27年度終了</p>

発 言 者	発 言 内 容
(山崎部長)	<p>時点でどうして達成できなかったか等の理由をもう少し掘り下げて検証する必要はないでしょうか。</p> <p>清掃行政の個別施策につきましては、先ほども申し上げましたとおり、個々の取り組みに関し、すべてを明確に数値化し、それら一つひとつを積み上げて結果にまとめるのは困難な面がございます。確かに結果だけを見ますと、各施策の取り組み過程において工夫や努力が足りなかったということになるかと思いますが、例えば、家庭ごみ・事業ごみ等の排出量については、その時々を経済情勢等も関係してまいりますので、目標値を達成できなかった理由について明確に割り出すのは難しいものと考えております。</p> <p>したがって、本計画の策定に当たりましては、一つの指針（基準）として、上位計画の「県」が提示した数値があるわけですから、各取り組みにおいてさらなる努力をする前提で、それらを目標値に定める必要があるものと考えます。</p>
小林議長 剣持委員	<p>委員の皆さん、いかがですか。</p> <p>根底から今回の改訂素案を改造するとなると、今後相当な労力を要することとなります。過去の改訂内容を見ましても、今回のものは一定水準以上の内容が盛り込まれていると思います。したがって、背景に県による上位計画があること等を考慮しますと、審議の方向性としてはこの素案で進めるべきと考えます。</p>
奥山委員 小林議長 相葉委員	<p>私も同様の意見です。</p> <p>基本的には現状の内容で進めていくようお願いします。</p> <p>私も基本的には同意見ですが、平成27年度終了時点における何らかの「評価」（施策項目ごとに達成度合いの印を付す等）は必要かと思います。</p>
小林議長 (石川副参事)	<p>事務局、それは可能でしょうか。</p> <p>「評価」欄の追加に関しレイアウトも含め検討させていただきます。</p> <p>なお、今年度も3月で終了となります。次回第7回審議会の開催にあたりまして、他にご質問等がある場合は、資料作成の関係もございましたので事前にお知らせくださいますようお願いいたします。</p>
小林議長 各委員 小林議長	<p>ほかにごございますか。</p> <p>「なし」の声</p> <p>それでは、議題（2）『その他』について、事務局から説明をお願いします。</p>

発 言 者	発 言 内 容
(齋藤副主幹) 小林議長 各委員 小林議長 (増岡主幹) (齋藤副主幹) (増岡主幹) 各委員 (増岡主幹)	それでは、議題（２）『その他』について説明させていただきます。 次回の第7回会議につきましては、3月6日（月）午後1時30分からとさせていただきます。通知につきましては、失礼ながら、この場にてお渡しをさせていただきます。 議題（２）『その他』について、ご質問等はございますか。 「なし」の声 特にないようでしたら、以上で全審議事項について終了とし、議長の座を下ろさせていただきます。 委員の皆様におかれましては、ご協力大変ありがとうございました。 続きまして、次第4にございます『その他』に移らせていただきます。事務局からお伝えすることはありますか。 特にございません。 全体を通しまして委員の皆様からご質疑等はございますか。 「特になし」の声 これもちまして、本日の会議を終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。	
平成 年 月 日	
議 長 の 署 名 _____	
議長が指名した者の署名 _____	